

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害評価学Ⅱ		演習・講義	山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
身体障害領域の作業療法評価の意義、目的、方法について学ぶ。知識と技術の獲得と両者の統合を目指す。				
授業の到達目標				
1. 身体障害領域の作業療法評価で用いる検査・測定（筋緊張評価、形態計測、感覚検査、反射検査）を列挙、説明、実施できる。 2. 筋の視診と触診の意義、目的、方法を説明し、実施できる。 3. 徒手筋力検査を行う意義、目的、方法を説明できる。 4. 徒手筋力検査を正確に測定できる。				
授業計画				
回	内容			
1	筋の視診と触診、筋緊張			
2	徒手筋力検査（MMT）			
3	徒手筋力検査（MMT）			
4	徒手筋力検査（MMT）			
5	徒手筋力検査（MMT）			
6	徒手筋力検査（MMT）			
7	徒手筋力検査（MMT）			
8	徒手筋力検査（MMT）			
9	徒手筋力検査（MMT）			
10	徒手筋力検査（MMT）			
11	徒手筋力検査（MMT）			
12	形態計測、感覚検査			
13	形態計測、感覚検査			
14	形態計測、感覚検査			
15	反射検査			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%			
レポート・課題	10%	予習として講義ノートを毎授業で提出する。提出の有無と内容で評価する。		
小テスト	10%	随時小テストを行う。		
平常点				
その他	40%	MMT実技試験で評価する。		
自由記載		再試の場合には筆記試験とMMT実技試験とで採点を行う。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 作業療法評価学 第4版	岩崎テル子 他編	医学書院		
神経診察クローズアップ 改訂第3版	鈴木則宏 編	メジカルビュー		
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一 他訳	協同医書		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
特に指定しない				
自由記載				
備考				
予習が講義参加の前提である。実技がある講義ではKCで参加すること。後期中にMMTの実技試験を行う。				